

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 畔上記念福祉会
施設名	あぜがみりんご保育園
報告者（役職）	清水 賢三（園長）
住所・連絡先	埼玉県越谷市蒲生寿町1-28
	☎ 048-985-2060
	E-mail shimizu@azegami-hoikuen.com

○タイトル（保育計画）

自然を身近に感じ、探究心、生命の尊さを学ぶビオトープ

○主な助成備品

ビオトープの設置

1. 実施した保育計画策定の目的

少しでも自然を身近に感じ、生物を見たり、接することにより、自然の摂理に対し、なぜだろう、どうしてだろうという探究心を育み、自然に対する興味と自然の大切さを学ぶということを目的としました。

私どもの保育園は公園の跡地に開設された保育園であり、建物の建設後も自然の物として樹木等緑はかなり残されておりました。従って、トンボ、チョウチョ、せみ、バッタ等の虫類は多くはありませんが、時折見ることができました。しかし、水辺がなく、水辺に生息する植物や昆虫類を見ることができませんでした。

以前はこの保育園一帯は田園地帯であり、小さな池があり、小川が流れ、子どもたちは外で水遊びをしたり、魚やザリガニを捕まえたりして遊んでいたものです。しかし、最近では田畑が開発され住宅地となり、以前のような自然環境が著しく失われてきています。

又、最近では少子化となり、子どもの世界ではゲームの普及に伴い外で遊ぶという機会が皆無に等しくなってきました。そうすると当然の結果として、自然と接する機会がなくなり、又、自然の恵み、有難さも感じることなく成長していくこととなります。



【写真】園舎、園庭とも全面南向きの環境。公園の時からある藤棚の下に砂場を設置

そこで、多少なりとも緑の自然が残されている私どもの保育園の園庭にビオトープを設置することにより、少しでも以前の環境に近い自然環境を作ってあげれば、子どもたちはその環境に触れることにより、自然の営みを見て、感じ、自然の良さ、素晴らしさを身をもって感じ、その結果として将来自然の大切さ、自然保護の気持ちが育ってくればと期待し、ビオトープの設置を計画してみました。

2. 具体的な実施内容

ビオトープを設置するに当たり、先ず設置場所をどこにするかを考慮しました。

本来ならば園庭に穴を掘り、ごく自然に近い池をと考えたのですが、限られたスペースの中で自然に近いビオトープというともまず考えられるのが子どもたちの安全性であります。常に乳幼児が走り回る園庭に自然に近いビオトープの設置は安全性に問題があるので、ある程度高さがあり、乳幼児は覗けるが、落ちる心配のない高さが必要であること。そして、園児だけでなく、保護者や近隣の人も覗けるような場所がいいということで道路に面したネットフェンスに沿って作ることにしました。建設は私どもがイメージした図に沿って専門の業者に作ってもらいました。完成後約1ヶ月間水を張りあく抜きをしました。



【写真】道路に面してL字型で設置したビオトープ

魚として何を入れようかと考えておりましたら、近隣の方でメダカを飼っている方がいて「メダカがたくさん増えたからいりませんか」というお話を頂き、譲っていただきました。

当初、何種類かの魚をと考えていたのですが、メダカを100匹近くもいただいたので暫くはメダカだけを飼うことにしました。ビオトープが完成し、メダカを放したところ、カラスがビオトープの端に止まり、水を飲んだり、メダカを食べにくるようになったので、ビオトープに一時網を張ることにしました。

しかし、メダカだけが入ったビオトープでは自然の環境にはほど遠いので水辺の植物が必要と考え、布袋草はじめ3種類ほどの水草を植え、ブロック、砂利等を入れ、少しでも自然に近いようにしようと工夫しました。水草、特に布袋草が増え、水面一杯に広がったので現在はカラスよけ用の網は取り除いてあります。



【写真】布袋草等、水草を植えた

3. その成果と評価

ビオトープの中にメダカを入れ、布袋草はじめ水草を植え、ブロックや砂利を入れると何とか自然の環境に近くなってきました。そうすると水草についていたタニシが繁殖し、とんぼが水辺を飛びまわるようになったのです。もしトンボが水草に卵を産んでいたら来年はヤゴでも生まれるのではないかと期待をしています。

園児たちは今までなかったビオトープが設置され、その中でメダカが泳ぎ、タニシが付着している様子に大変興味を持ち、園庭に出るたびに覗くようになり、年長の子は毎朝餌をあげるということで、生き物に対する親しみや愛情を持つようになりました。



又、水草として入れた布袋草が随分繁殖し、ビオトープの表面を覆い尽くすようになり、布袋草の花が何十輪も咲き、水の中の草も花が咲くのだと子どもたちは勿論保育士も大変興味深く、関心を持つようになってきました。

今年の冬は寒さが厳しく、ビオトープに氷が張ることが多く、外でビオトープに張った氷そのものも珍しくもあり、寒さの度合いによって氷の厚さが違うことも学んだようです。



完成して2年目ということもあり、まだまだ自然の環境には至っていませんが、年数を重ねるごとに自然に近い環境になり、水中の昆虫なども種類が増え、園児たちは自然の生物に対する興味を更に増し、自然を愛し、自然の大切さを育んでくれるのではないかと期待しています。

4. 今後の課題と展望

ビオトープを設置して1年が経過しました。

室内に設置された水槽と異なり、できるだけ自然に近い環境となるようにと考えますと、水を替えたり、掃除をしたりと手を加えず、ごく自然な条件の中で見守っていくのが良いのではないかと考えております。そのような状態でどこまで自然界に近い環境ができて、どのように変化していくか分かりませんが、今までにはない昆虫類が集まってくるのではないかと期待しています。

ただ、園庭で子どもたちが覗けるようにしてあるため、以上児はこの良し悪しが理解できるのですが、未満児は魚や昆虫類とともに水生の植物などに興味を示す反面、ビオトープの中におもちゃを放り込んだり、草を抜いたりするので、そばに近づかせないのではなく、少しずつ生き物や植物に対し関心を持ち、いたわりの気持ちを育んでいけたらと思っております。

5歳児クラスは就学前のクラスということで、就学前の準備を兼ね、文字、数字を学んだり、わからないことを調べたり、物事の見方、捉え方など少しずつ学びつつあるので保育者の指導の下、簡単な観察日誌をつけるよう教えていきたいと思えます。

日誌をつけることにより、自然の摂理、変化に気づき、より自然（ビオトープ）に関心を持ってくれるものと期待しています。日誌の内容はその日の天気、気温、水温、魚や水草、昆虫類の変わったことくらいで簡単な内容でいいと思っています。そのことにより、自然に対し関心を持ち、将来、自然の大切さを感じるとともに人にも伝え、保護する事の重要性を認識してくれるようになればと思っています。

以上